FARMSTAY IN TOME

感動いっぱい3日間

ファームステイ体験

登米地域の豊かな自然や恵まれた文化資源を活用し、グリーン・ツーリズム（※）の普及促進を目指したファームステイ（第１次産業体験学習）が、今年も横浜市の神奈川大学付属中学校３年生66人（男子31人、女子35人）の参加で行われました。受け入れ農家は登米町、東和町、津山町の23世帯。子どもたちは７月31日から８月２日までの３日間、野菜の収穫、畑の草取り、家畜の世話など、いろいろな農作業を体験しました。参加した子どもたちは、登米の地で何を感じ何を学んだのでしょうか。また、受け入れ農家の方々は、登米の生活や文化をどのように伝えたのでしょうか。感動いっぱいの３日間を紹介します。

※グリーン・ツーリズム
農山漁村地域で自然や文化、人との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。
登米地域では、グリーン・ツーリズムの普及促進を図ることを目的に、平成16年12月に登米地域グリーン・ツーリズム推進協議会が発足。前身は登米・本吉地域グリーン・ツーリズム推進協議会。会長は小野寺律子さん（東和町）で、現在会員は55人。
協議会では、趣旨を理解していただける会員を募集しています。
【問い合わせ】協議会庶務　佐藤憲一さん　☎0220（45）1661
　産業経済部商工観光課　☎0220（34）2734

7月31日〔1日目〕

生徒66人と引率の先生を乗せたバス2台が東和勤労青少年ホームに到着。入村式が行われ、午後3時に受け入れ先の農家に移動。到着後、自己紹介をして早速体験活動を開始。夕食は、各家庭でおいしい登米地域の郷土料理を満喫しました。

油ふ、納豆もちがとてもおいしい

【佐藤憲一さん宅】

▼荒井梨沙さん「夕方にまき割りをして一輪車で倉庫に運びましたが、不安定で何度も倒れました。夕食は新鮮な野菜など、おいしいものばかり。中でも『油ふ』がとてもおいしかったです」

【千葉正紀さん宅】

▼村上友美さん「初めてもちつきをして、もち切りに挑戦しました。ずんだ、納豆、あんこ、雑煮を全部食べました。納豆もちが一番おいしかったです」

ブロッコリーの苗植えに挑戦しました（千葉正紀さん宅）

8月1日〔2日目〕

子どもたちは早朝からの農作業体験活動。引率の先生、商工観光課職員などが受け入れ先の農家を訪問し、活動の様子を見学しました。

朝5時に起きて乳牛の乳しぼり体験

【佐藤公洋さん宅】

▼名倉理紗さん「キュウリ、トマト、トウモロコシなどの野菜の収穫を手伝いましたが、ナスにとげがあることを初めて知りました」

■佐藤公洋さん

「家に泊まった3人は、素直で明るい子どもたちでした。接してみると、都会の子も田舎の子も違いはありません。ただ都会の子は、農業を知らないだけだと思いました」

【佐藤勝雄さん宅】

▼木部心紀くん「朝5時に起きて乳牛の乳しぼりをしました。しぼっていたら、牛に顔を舐められてしまいました。いつも飲んでいる牛乳が出来るまで、大変な作業が必要なことを知りました」

【登米農産加工調理場＝阿部とき子さん、佐藤よう子さん、金田よし子さん、芳賀よみ子さん、千葉幸子さん】

登米町の受け入れ5農家、生徒15人が合同で昼食を作りました。豆腐やスパゲティーのミートソース、豆板醤などの食品加工に挑戦。おいしく出来上がりました。

乳牛に餌を与えました（佐藤勝雄さん宅）

【千田えつ子さん宅】

▼烏山理紗さん「農作業は草取りと大根の種まきをして、夜は華足寺の住職さんのお話しを聞きました。三滝堂の沢の水はとてもきれいで、魚がたくさん泳いでいることに驚きました。横浜と違って自然がいっぱいでうらやましいです」

【千葉隆雄さん宅】

■千葉隆雄さん

「わたしは森林インストラクターをしていますが、子どもたちにはありのままの自然を見てもらいました。魚、カブトムシ、クワガタムシ捕りやそばの種まき、食事は流しそうめん。ここで体験したことは、都会ではできないことばかり。この体験をこれからの生活の中で役立ててほしいと思います」

【飯田束さん宅】

▼佐々木彰彦くん「はっとを自分で作って食べるのは初めてでした。薄くのばすのが難しかったです」

■飯田束さん「朝4時30分に起きて、ジャガイモの収穫や堆肥運び、ナシの袋かけをしてもらいました。また、今年は梅干しを400㌔出荷する予定なので、梅干し作りにも挑戦してもらいました。とても元気が良く素直な子どもたちでした」

わが子のようにかわいい子どもたち

【及川みえ子さん宅】

■及川みえ子さん

「子どもたちが来る1週間前に3つ子のメス牛が生まれました。これは大変珍しいこと。受け入れた子どもたちも3人なので、一人1頭ずつ子牛に乳を与えてもらいました。また、ドジョウ捕りやニンニクの皮むきなどもしてもらいましたが、みんな一生懸命作業をしていました。昔、ファームステイの子どもたちを受け入れたのがきっかけで、自分の子どもたちも家の手伝いをするようになりました。ファームステイの子どもたちは、わが子のようにかわいいです。これからも受け入れを続けていきます」

梅干し作りを手伝いました（飯田束さん宅）

8月2日〔最終日〕

ファームステイ最終日。各家庭で過ごす最後の時間を、農作業や自然体験、受け入れ先の家族とのだんらんなど、子どもたちはそれぞれの時間を過ごしました。

家の手伝いのほかに孫の遊び相手も

【堀田公雄（きみお）さん宅】

▼櫻井のぞみさん「わさびの植付けをしました。3年後の収穫時にまた来たいです。お母さん（堀田さん）の料理は何でもおいしかったです。特にごはんが今まで食べたことがないくらいおいしくて感動しました」

【小野寺律子（りつこ）さん宅】

■小野寺律子さん「リンゴ、ブドウ畑のカラスよけにテグスを張ってもらいました。子どもたちは家の手伝いのほか、孫の遊び相手にもなってくれました。自家製のリンゴジュースを飲んだときは、おいしいと何杯もおかわりしてくれました」

出荷用たまねぎの皮むき（及川恒子さん宅）

3日間の体験とふれあいがお土産

正午過ぎ、子どもたちは各家庭で昼食、帰りの支度を終え、受け入れ農家の家族と一緒に勤労青少年ホームに到着。別れを惜しむかのように、各家庭で過ごした3日間の思い出話や再会の約束をしていました。中には泣きじゃくる子どもも。

離村式では、生徒を代表して鍋島愛貴（あき）さんが「この3日間で、普段当たり前のようにお店で買って食べている食べ物は、農家の人たちが一つ一つ手間をかけて工夫をしながら作っていることを知りました。また、都会では見られない美しい自然と触れ合えたり、普段できない貴重な体験ができ、とても勉強になりました」とあいさつ。受け入れ農家を代表して阿部とき子さんが「暑い中での農作業ご苦労さまでした。体験学習で学んだことを忘れず、登米市を第2のふるさとだと思ってたまには思い出してください」と話しました。

子どもたちは、受け入れ農家から米や野菜など、お土産をもらいましたが、都会では味わえない『体験』と農家の人たちとの『ふれあい』こそが、子どもたちにとって一番のお土産になったのではないでしょうか。

ファームステイ受け入れ農家

（敬称略）

地区	受け入れ農家
登米	阿部とき子
	佐藤よう子
	金田よし子
	芳賀よみ子
	千葉幸子
東和	千葉正紀
	大橋和夫
	佐藤勝衛
	佐藤憲一
	佐藤公洋
	佐藤勝雄
	小野寺寛一
	千田えつ子
	千葉隆雄
	阿部まり
	飯田束
	及川恒子
	石坂栄子
	及川みえ子
	青山昭治
	及川光男
	小野寺律子
津山	堀田公雄